

かざぐるま

ひと 未来 輝いて

2026 January

NO. **111**



山形県梓園



トピックス

- 令和6年度事業報告（概要）及び決算報告
- 令和7年度役員及び評議員
- 希望が丘の移転改築について
- 新任職員研修
- 各施設の取組
- のどか 商品のご案内

令和6年度 事業報告（概要）

令和6年度は、将来構想に基づく後期5か年実行計画及び修正計画に基づき、自立的・持続的な経営に向けて利用率向上と目標収支差額の達成の取組を推進するとともに、引き続きセーフティネット機能及び新たなニーズ（高齢障がい、強度行動障がい、医療的ケア、重症心身障がい、難病など）への対応など事業団の質の高い福祉サービスを生かした事業展開と機能強化を目指しました。

また、新型コロナウイルス感染症については、感染症法上2類から5類へ移行したものの、断続的な発生やクラスターなどがあり、引き続き基本的な感染症対策を図りながら事業を継続し、新規利用者の受入促進に努めました。

令和6年度 決算報告

令和6年度資金収支計算書

(単位：円)

勘定科目	決算額
事業活動による収支	
事業活動収入計	7,088,965,266
事業活動支出計	6,441,519,321
事業活動資金収支差額	647,445,945
施設整備等による収支	
施設整備等収入計	143,659,344
施設整備等支出計	168,551,816
施設整備等資金収支差額	△24,892,472
その他の活動による収支	
その他の活動収入計	97,622,559
その他の活動支出計	550,601,966
その他の活動資金収支差額	△452,979,407
当期資金収支差額合計	169,574,066
前期末支払資金残高	1,974,867,820
当期末支払資金残高	2,144,441,886

令和6年度事業活動計算書

(単位：円)

勘定科目	決算額
サービス活動増減の部	
サービス活動収益計	7,075,089,243
サービス活動費用計	6,576,755,168
サービス活動増減差額	498,334,075
サービス活動外増減の部	
サービス活動外収益計	22,693,409
サービス活動外費用計	4,374,023
サービス活動外増減差額	18,319,386
経常増減差額	516,653,461
特別増減の部	
特別収益計	143,550,576
特別費用計	143,299,487
特別増減差額	251,089
当期活動増減差額	516,904,550
繰越活動増減差額の部	
前期繰越活動増減差額	2,603,780,399
当期末繰越活動増減差額	3,120,684,949
基本金取崩額	0
その他積立金取崩額	32,956,000
その他積立金積立額	482,761,000
次期繰越活動増減差額	2,670,879,949

令和6年度貸借対照表

(単位：円)

資産の部		負債の部	
勘定科目	当年度末	勘定科目	当年度末
流動資産	2,590,176,119	流動負債	741,646,916
		固定負債	1,261,819,436
固定資産	9,606,182,161	負債の部合計	2,003,466,352
		純資産の部	
基本財産	5,538,664,817	基本金	10,000,000
		国庫補助金等特別積立金	4,967,299,538
		その他の積立金	2,544,712,441
その他の固定資産	4,067,517,344	次期繰越活動増減差額	2,670,879,949
		(うち当期活動増減差額)	516,904,550
		純資産の部合計	10,192,891,928
資産の部合計	12,196,358,280	負債及び純資産の部合計	12,196,358,280

令和7年度 役員及び評議員 (令和7年12月1日現在)

◎役員

職名	氏名	現職
理事長	加藤 亮	専任
専務理事	堀井 洋幸	専任
理事	伊藤 陽介	浜田・伊藤法律事務所 弁護士
理事	新澤 陽英	公立置賜南陽病院 医師
理事	深瀬 善信	救護施設泉荘 荘長
理事	佐藤 保政	総合施設かるむの里 所長
理事	佐藤 陽一	特別養護老人ホーム大寿荘 荘長
監事	矢口 俊雄	元山形県会計管理者
監事	松田 明子	元山形県しあわせ子育て 応援部長

◎評議員

氏名	現職
江口 拓也	社会医療法人二本松会 山形さくら町病院 病院長
小島なをみ	山形県老人福祉施設協議会 理事
金子 正美	川西町社会福祉協議会 会長
菊地 義隆	山形県知的障害者福祉協会 副会長
佐藤 孝喜	山形県身体障害者福祉協会 事務局長
佐藤 雅之	遊佐町社会福祉協議会 常務理事
澤邊みさ子	東北公益文科大学 教授
玉木 康雄	山形県社会福祉協議会 会長
前川 孝子	フリーアナウンサー

(※五十音順)

令和6年度実践報告会を開催しました

長年、当事業団では、サービス向上を目指して取り組んできた日頃の実践について、改めて分析・評価することで、専門性の継承と職場の活性化の推進を目的として実践報告会を開催しています。

昨年度に引き続き、令和6年度はオンラインで実施しました。助言者には、堀井専務理事、山形県泉荘長、総合施設かるむの里所長の他に、令和6年度よりご協力いただいている東北公益文科大学の藤原良太 助教授をお招きし、発表施設に対し、ご助言・講評をいただきました。各施設の取組や助言者からの具体的なアドバイスを、職種を越えて共有することができました。

当事業団では、今後も実践と振り返りを継続し、実践研究を通して専門性の継承と職場の活性化を推進してまいります。

助言者をお引き受けいただいた藤原 良太 助教授に、あらためて御礼申し上げます。



令和6年度実践報告会

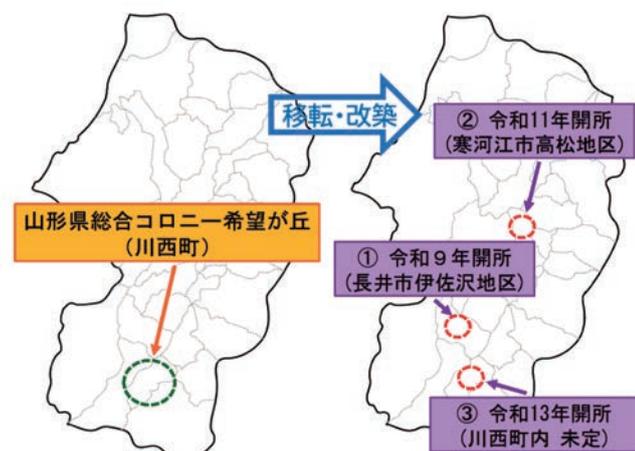
	施設名	テーマ
最優秀賞	障害者支援施設 山形県梓園	慢性便秘症利用者における腸活の効果 ～サークル活動がもたらすからだところの変化～
	障害者支援施設 山形県慈丘園	多様な障害特性を理解し統一した支援を継続できる職員になる
優秀賞	特別養護老人ホーム 松濤荘	服薬事故報告減少に向けた取組
	障害者支援施設 山形県吹浦荘	お口のケアから健康に ～当施設における口腔ケアの実態と口腔衛生管理加算を活かした支援～
	養護老人ホーム 明鏡荘	自然排便でスッキリ快調！ ～下剤に頼らない排便コントロール～
	障害者支援施設 山形県鶴峰園	新しい介護技術を学び実践する ～Aさんと職員が力を合わせるとこうなった～

山形県総合コロニー希望が丘の移転改築

昭和49年に設立された総合コロニー希望が丘ですが、老朽化が進んでいるため、移転改築の計画を進めています。複数年度にわたり、3つの地域へ分散して施設を建設していく予定です。

入居者様にとって快適な生活の場、職員にとって働きやすい職場環境、新しい地域の皆様にとって親しみやすい施設となるように、準備を進めてまいります。

【移転改築のイメージ】



【一つ目の施設（長井市に建設予定）完成イメージ図】



【移転改築のスケジュール（予定）】

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
長井市	← 設計	← 工事建設	← 建設	← 開所				
寒河江市			← 設計	← 工事建設	← 工事建設	← 開所		
川西町					← 設計	← 工事建設	← 工事建設	← 開所

（仮称）コロニー希望が丘（長井）移転改築工事 起工式を執り行いました

9月11日、長井市における（仮称）コロニー希望が丘（長井）の移転改築工事の起工式を、滞りなく執り行いました。

令和9年度の開所を目指し、本格的に工事が始まります。地域の皆様のご理解とご協力に深く感謝申し上げます。

この新施設が、地域に根差した新たな福祉拠点として、皆様に必要とさせていただけるようこれからも努めてまいります。



新任職員研修

今年度採用の総合職及び医療職の職員を対象に、フリーアナウンサーで法人評議員でもある前川孝子氏を講師に迎え、2日間の日程で新任職員研修を開催しました。事業団の組織、福祉施設職員としての基本的な考え方や求められる役割などについて理解を深め、業務に従事する上での土台作りを基本とした内容としました。

「ひと、未来、輝いて」のキャッチフレーズのもと、利用者が持つそれぞれの「輝き」に目を向け、そのひとらしい「輝き」を引き出すための支援ができるように、これからも努力していきます。

ここでは、受講した職員の声をご紹介します。



特別養護老人ホーム福寿荘 援助員 伊藤 美恵

研修において、事業団の歴史や理念をより深く知ることができ、事業団職員としての責任を改めて実感しました。常に緊張感を持ちながら業務に取り組み、個人プレーではなく、チームケアの質を高めていくことが大切だと考えます。まずは自分自身が利用者に対してより良い支援ができていのかを振り返り、介護の質を高めるために学び、知識を身に付け、スキルアップしていきたいと思っています。その意識を持ち続けるためにも、疲れやストレスをため込まないようセルフケアに目を向け、誰にでも笑顔で寄り添えるように努力していきます。



養護老人ホームおいたま荘 援助員 淀野 庵慈

初出勤から約半年が経ちました。この半年を振り返ってみましたが、研修を受ける前と後で大きく変わったことがありました。初任者研修で“コミュニケーション”について学びました。ですが未だどのように声を掛けたらよいか分からない場面が多々あり、日々頭を抱えています。今までは「人の心の中が分かれば簡単なのに」とさえ思っていました。しかし、現在は、そのコミュニケーションの難しさこそが福祉の真骨頂でありやりがいであると感じています。「昨日話してくれなかった人も、今日なら話してくれるかも」と何度もトライすることでたくさんの利用者様が心を開いてくれたと感じます。まだまだ青二才ではありますが、日々成長できることが嬉しく、楽しく感じています。初めに教わったことを礎に様々なことに挑戦していきたいです。



障害者支援施設山形県慈丘園 援助員 高橋 怜穂

新任職員研修では、山形県社会福祉事業団の理念や役割、倫理綱領などについて、社会人のマナー、話し方講座といった講義がありました。全体を通して直接人と関わる職だという点をしみじみ感じる研修でした。

利用者は様々な困難を抱えており、生まれる悩みも人それぞれ違います。利用者がより良い生活を送る為に施設があり、働く職員があります。そこには人同士の温かく繊細な関わりがあります。

職員一人一人の関わりが、利用者の人生に影響を与えており、職員同士の関わりもあるからこそ連携の取れた支援が成り立っていると感じました。



山形県総合コロニー希望が丘しらさぎ寮 援助員 佐藤 寧音

新任職員として新しい環境で働くことになり不安なことがたくさんありましたが、様々な研修や上司の方々の日々の教えて学び、頑張ることができています。

現在、支援をしていく中で私が心がけていることは、利用者の方々に寄り添うことです。利用者の方が何を求め、何を考えているのか把握できない場面が多々ありました。そういった際に、わからないからといって自分本位に考え利用者の方に対応してしまうことで戸惑わせてしまい、本当の答えにたどり着けないことがわかりました。そういったことから、利用者の方から要望があったときは、時間、場所、状況等を把握したうえで、何を求めているのか利用者に興味を持って寄り添っていくことが大事だと考え支援を行っています。

これから、支援をしていく中で学び、経験したことを吸収して、がんばっていききたいと思います。

松濤荘 「少しずつみんなで楽しむ時間が戻ってきました」

副荘長 後藤 幸絵

以前は、普段生活しているユニットを越えて全体で行事を行ったり、外部から歌や踊りの講師をお招きしたりしていましたが、新型コロナウイルス感染症の感染対策により行事を縮小せざるを得ませんでした。現在は徐々に施設全体での行事を再開し、外部からの講師の受け入れは控え、職員が講師となって、皆さまと一緒に身体を動かす時間を設けています。

花笠音頭は覚えている利用者様も多く、音楽に合わせて自然と踊りが出て来ます。また、施設全体で集まることで、昔なじみの方同士が顔を合わせ、世間話に花が咲くこともあります。

これからも感染対策を万全にしながら、日々の生活に彩りを添える取り組みを続けてまいります。



明鏡荘 「Pastime (気晴らし) を求めて」

援助員 村山 千鶴

猛暑を乗り越え、利用者様、職員ともに元気いっぱいの毎日を過ごしております。

今年度は、道の駅での買い物やひめさゆりの鑑賞、心和む足湯など、利用者様と職員と一緒に楽しむ外出を企画、実施しました。外の空気を思いっきり吸い込み、開放的な気分で過ごす利用者様の弾けるような笑顔は、私たち職員の心まで温かくしてくれました。

現在は、町の文化祭へ向けての作品作りに励んでいます。来年の干支の壁掛けや書道に挑戦中です。利用者の皆さんの力作が勢揃いする展示会と見学を、今から楽しみにしています。



吹浦荘 「『できた！』がうれしい！」

援助員 相蘇 一成

吹浦荘「ものづくりサークル」は男性4名、女性4名と職員2名で活動しています。毎月第一日曜日が活動日で、2か月で一つの作品を作りあげています。今年度の4・5月はペットボトルに鈴を入れ、紙粘土を貼り付け色を塗り、顔を描いて音の鳴るこけしを作り、6・7月はアジサイやスターチスを押し花にして額に飾りました。8・9月はカラー粘土とビーズでカラフルなクッキーを作りました。10月はダンボールで海の生物を作り水族館を作りました。利用者さんの笑顔がやりがいにつながります。十人十色の作品は玄関に飾り、皆さんから大好評です。



まつのみ寮 「楽しむ心がつながりを育む」

寮長 鍋倉 広英

まつのみ寮では、利用者の皆さまが安心して日々を過ごせるよう、障がいのある方の視点に立った環境づくりを大切にしています。近年、コロナ禍による制限が徐々に緩和され、私たちの生活は少しずつ以前の姿を取り戻しつつあります。面会の再開や実家への帰省も可能となり、利用者の方々が大切な人との時間を過ごせる機会が増えてきました。外出もできるだけ多く取り入れ、地域とのつながりや自然とのふれあいを通じて、心身のリフレッシュを図っています。

また、季節ごとの行事やレクリエーションも積極的に企画し、日々の生活に楽しみや彩りを添えています。四季折々のイベントやまつのみフェス等を通して、利用者の皆さまが笑顔になれる時間を提供しています。こうした活動は、ただの娯楽ではなく、社会参加や自己表現の場としても重要な役割を果たしています。そして何よりも、支援者自身が楽しみながら関わることで、良い空間づくりの第一歩だと私たちは考えています。支援者が笑顔でいることで、利用者も安心し、自然と笑顔が生まれます。支援者間においても楽しむをベースに共に喜びを分かち合うことで、施設全体が温かく、居心地の良い場所となります。これからも、誰もが自分らしく過ごせる施設を目指し、日々の支援に取り組んでまいります。



ワークショップ明星園

「生活介護の活動紹介」

援助員 堀米 加奈

ワークショップ明星園の生活介護では、日々の生活の中で、様々な活動を楽しんでいます。今年の夏には、施設全体でどなたでも楽しめるようにスイカ割りを行いました。安全に配慮しながらスイカ割りを行い、割ったスイカは利用者の皆さんで分けて召し上がりました。笑顔でイキイキとした利用者さんの姿がみられました。

他にも、創作活動や作業活動、ロコモ体操などの健康運動にも取り組んでいます。創作活動では、季節に合わせた作品等を作っています。10月には、千歳地区文化祭に秋の創作（ハロウィン作品）を出展しました。

今後も、利用者の皆さんが安心して、楽しく過ごせるよう努めていきたいと思えます。



ゆあーず 「基幹相談支援センターとして」

所長 大山 敦子

ゆあーずは、障がいのある方やそのご家族が住み慣れた地域で安心して生活していくことができるよう、相談を受けております。

今年4月から、山形市より「基幹相談支援センター」として委託を受けることになりました。

基幹相談支援センターには、地域の中核的な機関として、障がいのある方の地域における相談支援の総合的な窓口を担う役割があります。これまで以上に責任の重さを感じるとともに、ご期待に添えられるよう努めていきます。

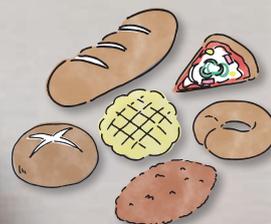
のどか 商品のご案内

のどかでは、生産活動としてパンの生産・販売をしています。掲載していない商品もありますので、どうぞお気軽にお問合せください。



新聞バッグ はじめました

のどかでは、レジ袋のほかに、利用者さんが一つひとつ丁寧に作った「新聞バッグ」を使用しています。数に限りがございますが、再利用の工夫と手作りの温もりをぜひお楽しみください。



きなこベーグル

きなこを練り込んだ生地にくるみと黒糖を包んだベーグルです。茹でる工程で黒糖が水分を含み、黒蜜に変身します。きなこくるみの香ばしさと濃厚な黒蜜の甘味…間違いのない美味しさです。9月から登場したきなこベーグル、大ヒット商品となっています！ぜひご賞味ください。



【お問合せ】 就労継続支援B型事業所 のどか 〒999-3511 西村山郡河北町谷地己56番地の8
電話：0237-72-6550

山形県社会福祉事業団ホームページでは、施設情報や職員採用情報を随時更新しています。

URLはコチラ↓
<https://www.ysj.or.jp>



山形県社会福祉事業団では
感染対策を徹底しています



※掲載写真の一部は、撮影時のみマスクを外しています。